

レスリング ジュニアオリンピック 光星勢活躍



浜田さん(3年)銀 荒道さん(2年)銅

八戸 14、15日に横浜市で開かれたレスリングのJOCジュニアオリンピックカップで、八戸学院光星高校3年の浜田大地さん(17)が男子カデットの部フリースタイル92kg

級で銀メダル、同2年の荒道豊樹さん(16)が同48kg級で銅メダルに輝いた。2人は「大会を通して新たな課題が見つかった。次の大会ではもっと上を目指したい」とさらなる飛躍を誓った。(工藤俊介)

「次はもっと上位を」

高校入学からレスリングを始めた浜田さんは、同大会は昨年に続いて2度目の出場。前回は初戦で敗退した悔しさをバネに、持ち前のパワーと体の柔軟さで、準決勝までの4試合を危なげなく勝ち上がった。決勝は前半に2-6とリードを許す苦しい展開となったものの、徐々に盛り返し2点差まで急追。最後まで技を繰り出したが逆転には至らず、涙をのんだ。前回大会は46kg級で銀メダルに輝いた荒道さんは、階級を上げて48kg級に挑戦した。寝技を中心に器用さを生かしたスタイルで2試合を勝ち上がり準決勝に進出。激しい点の取り合いとなったが、試合終了間際に仕掛けた投げ技がタイムアウトで得点につながらず、惜しくも8-9で敗れた。2人は19日、指導に当たる同部の金沢清文監督らと

JOCジュニアオリンピックカップで入賞した浜田さん(左)と荒道さん(右)。左は2人を指導する金沢監督

ともに、東奥日報社八戸支社を訪れ、入賞を報告した。浜田さんは「勝ち進むにつれ技が決まらなくなり、自分の技術の未熟さを痛感した」、荒道さんは「僅差でも負けは負け。接戦をものできる強さがほしい」と厳しい表情。2人は夏のインターハイ優勝を目標に掲げ、「新たに見つけた課題の克服に向け、これまで以上にトレーニングに取り組み」と声をそろえた。

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです